連載 次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑯

未来に繋がる農業経営を目指して

～深い技術と広い視野～

私はこの春に就農しました。就農を決心したのはその約1年前です。それまでは農業を仕事の選択肢として考えたことはありませんでした。祖父は地元石川県で水稲とたばこを作る農家でしたが、小さい頃から祖父の背中を見ていた私は、経営的な面で農業に魅力を感じておらず、その後、関西の大学の工学部に進学し、東京のベンチャー企業に就職しました。

転勤で栃木に来てから、実家でいちご農家を営む妻と知り合い、日本一の産地でのいちご作りに経営的な魅力を感じ、会社を辞め挑戦することに決めました。

農業に関しては全くの門外漢でしたので、いちご農業を基礎から学ぶため、未来塾に入学しました。

未来塾での研修では、様々な栽培方法を試すことができるため、大変勉強になっています。また本年は、地域やバックグラウンドの異なる12名の研修生が集まり、お互いの圃場視察や情報交換を積極的に行っています。良い仲間に出会えたと思います。

将来的な目標は、工学的・生物学的な知見を併せた高い栽培技術と、働きやすく持続可能な農業を実現することです。県内で高い実績を上げる先輩農家の方々はいちご栽培における高度な知識と経験に富んでおり、農家としての大きな目標です。また、グローバル化や自動化などの農業を取り巻く外部環境変化を脅威ではなく機会として捉えられるかどうかは、工学を含めた栽培技術を自身の経営の強みとできるかどうかにかかっていると考えます。広い視野と深い技術を持った生産者を目指し何事にもチャレンジしていきたいと思います。

（「とちぎ農業未来塾」就農準備専門研修・いちご専攻　人見峰洋）

地域に貢献する農業を目指して

私は、農家の長男として生まれ、何不自由なく育ってきました。普通高校に入学し、将来のことを考えるようになり、進路に悩みながら、休日は父の仕事の手伝いをしてきました。

そんな中、今まで何不自由なく育ってきたのが当たり前ではないことを父の仕事姿を見て思い知らされました。私が見た光景は、毎日朝から晩まで休みなくずっと作業をしている父の姿でした。夏は朝早くから蒸し暑いにもかかわらず休みなく仕事をし、冬は寒い中、早朝から夜、日が落ちて暗い中でもライトをつけて作業をしている姿を見て、農業は大変な職業だと思いました。しかし、仕事の手伝いをしていくうちに、自分の中で農業が大変で辛いものから、楽しくやりがいのある仕事だと思うようになり、私もやってみたいと思うようになりました。

普通高校に進学したため農業の知識はなく、どうしたらいいかと思っていた時に栃木県農業大学校を知り、すぐに受験することを決めました。農業大学校に入学し、最初は実習などが難しいのではと不安だったのですが、先生方が優しく丁寧に教えてくれるので、色々な知識や技術を少しずつ身に付けていくことが出来ました。

学校の実習や家の手伝いをしていくうちに、単に農業をするという夢から「農業を主体として生活したい」「安心安全な野菜を作って消費者に提供したい」という夢に変わってきました。

私の住む地域では、農業従事者の高齢化が深刻で農業をやめてしまう高齢者の方が増え、耕作放棄地が増加しています。私は、将来父とは別の経営で、父とは違う品目を取り入れていき、最終的には耕作放棄地を利用して個人経営から法人化を目指していきたいと思っています。

（農業経営学科　角田　聖）

農業大学校ホームページ
http://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/index.html